



令和 2 年度 (2020)

青森県基本計画

「選ばれる青森」
への挑戦

支え合い、共に生きる

要 覧



青森県総合学校教育センター

AOMORI PREFECTURAL SCHOOL EDUCATION CENTER



青森県総合学校教育センター
イメージキャラクター
「アプセくん」

CONTENTS

I	設置目的・運営方針	1
II	業務の概要	2
1	研修に関する事	2
2	研究に関する事	3
3	教育相談に関する事	4
4	資料・情報の収集・提供に関する事	4
5	学校等の支援に関する事	5
6	情報化の推進に関する事	6
7	広報に関する事	7
III	組織機構	8
IV	施設の概要	9
V	沿革	11

I 設置目的・運営方針

1 設置目的

青森県総合学校教育センターは、設置条例に基づき、学校教育の充実振興を図るため、次の業務を行います。

- (1) 学校教育に関する教育関係職員の研修に関する事
- (2) 学校教育に関する専門的、技術的事項の研究に関する事
- (3) 教育相談に関する事
- (4) 学校教育に関する資料及び情報の収集及び提供に関する事
- (5) その他学校教育の充実振興上必要な事

2 運営方針

青森県総合学校教育センターは、子どもたちの未来を創るため、所員の心と力を結集して、学校を支援します。

II 業務の概要

1 研修に関すること

「これからの社会を生き抜く力」を育む“教師力”の向上を目指し、次のように研修講座を開催します。

- 講座の目標を明確にし、演習、協議等を重視した主体的に参加できる研修を提供します。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指した内容を提供します。
- 学校、先生方の課題や悩みに寄り添い、その実践と意欲をサポートします。

(1) センター研修概要

指標の観点※/キャリアステージ/職		採用前 臨時講師等	形成期 初任から概ね採用5年目まで	向上・発展期 概ね採用6年目から15年目まで	充実期 概ね採用16年目以降	校長及び教頭
人間力 指導力 マネジメント力	研修講座					
	A 基本研修 68講座		初任研・新採研 フォローアップ研	中堅教諭等資質向上 前期研修講座 ※採用5～7年目のうち いずれかの1年間で受講する	中堅教諭等資質向上 後期研修講座 ※採用12～15年目のうち いずれかの1年間で受講する	
	B 職務研修 18講座			新任主任等に関する研修講座		新任管理職に関する研修講座
	臨時講師等の研修 ※C・Dの講座も受講可			職務に関する研修講座	主任等に関する研修講座	
	C 教科研修 56講座		教科教育に関する研修講座			
	D 教科外研修 34講座		領域等に関する研修講座 生徒指導・教育相談に関する研修講座 特別支援教育に関する研修講座 情報教育に関する研修講座			

(2) 研修区分別内訳 [令和2年度講座数] (令和元年度講座数：延べ修了者数)

全体	[176講座]	(184講座：4,520人)
基本研修	[68講座]	(73講座：2,590人)
初任者研修	[35講座]	(35講座：1,915人)
新規採用者研修	[11講座]	(14講座：85人)
フォローアップ(2年次)研修	[4講座]	(4講座：171人)
中堅前期研修、中堅前期・後期研修	[10講座]	(10講座：420人)
中堅後期研修	[9講座]	(10講座：実施なし)
職務研修	[18講座]	(20講座：748人)
専門研修	[90講座]	(91講座：1,181人)

(3) 学校種別内訳 (令和元年度延べ修了者数)

全体	4,520人		
小学校(公立)	1,009人	中学校(公立)	840人
高等学校(県立)	1,827人	特別支援学校(県立)	794人
その他	50人		

2 研究に関すること

本県学校教育の諸課題について調査研究を行い、その成果を公表及び提供します。

- 学校への還元を第一とし、教育活動に役立つ実践的・先導的な研究を行います。
- 学校での活用を進めるため、研究報告書、実践の手引き、指導資料等を作成して学校に提供します。
- 研究成果や研究過程を、Webページ上へ掲載し、広く県民に理解いただくとともに、全国に向け発信します。

研究では、研究員による個人研究のほか、本県学校教育の課題解決や新学習指導要領実施、各校がめざす「魅力ある学校づくり」を支援するために、全所員が、課の枠を超えて研究にあたるプロジェクト研究を推進します。

2019 プロジェクト研究（令和元年度の成果）

プロジェクト名	おもな研究内容
授業力向上	新学習指導要領において、育成を目指す資質・能力のうち「学びに向かう力・人間性等を涵養すること」に結びつける指導法の工夫として、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間における課題設定場面を想定し、青森県総合基本計画「選ばれる青森への挑戦」の資料の活用方法について研究しました。
通常学級におけるインクルーシブ教育システムの構築	平成29年度に作成した小冊子『青森県の先生の困ったをよかつたに変える支援ヒント集』の改訂版として、新たに5つの事例とインクルーシブ教育システムについてのコラムを盛り込み作成しました。
マネジメント	各校種ごとに設定する教育目標を実現するために、各学校の教育目標を踏まえたカリキュラム・マネジメントを実践し、総合的な学習（探究）の時間を核とした教科等横断的な指導計画の作成を通じて、カリキュラム・マネジメントを自分事として捉えることができるように研究を進めました。
学級・ホームルーム経営	いじめ・不登校の未然防止に向けて、日常の学級・ホームルーム活動、授業等で活用できる学校種毎の「すごろくトーク」を作成しました。
情報教育	「授業におけるICTの活用」では、ICT活用のハードルを下げ、積極的なICT活用によって児童生徒の学力向上につなげることを目指し、教育用アプリの『ロイロノート・スクール』を活用した授業例、グラフや統計などを動的に把握・理解することが容易にできる『GeoGebra』を活用した授業例を提案しました。 「小学校におけるプログラミング教育」では、令和2年度から全面実施される小学校のプログラミング教育について、小学校学習指導要領解説及び小学校プログラミング教育の手引（第二版）に掲載されている授業例を中心に、具体的な事例をまとめました。詳細については、特設サイトがありますのでそちらをご覧ください。 http://programming.asn.ed.jp/

令和2年度研究成果の発表

あおり教育研究発表会（旧あおり教育フェスタ）～青森県総合学校教育センター研究発表～
期日 令和2年11月13日（金）～14日（土）



「あおり教育フェスタ2019」の様子

3 教育相談に関すること

県内の学校、本人や保護者の教育相談に応じます。

○相談者の悩みや相談を一緒になって考えます。

○学校や各市町村教育委員会、医療や福祉などの関係機関と連携して相談を行います。

(1) 教育相談課

主な相談内容	対象	方法
○いじめ・不登校等子供の教育全般に関すること ・いじめや不登校に関すること ・学業に関すること ・性格や行動に関すること ・進路や適性に関すること	幼児、児童生徒 保護者及び教職員	毎週 月～金曜日 9：00～17：00 (電話は8：30～) 月1回 土曜日 9：00～12：00
こころの教育相談センター（適応指導教室）		開室時間
○不登校状態にある県内全域の児童・生徒（小中高校生対象）に対し、適切な指導および支援を行い、子供の社会的自立を目的とする ・本人や保護者、教職員との面接相談により、不安や悩みの解消のための支援をします。 ・体験的な活動、望ましい集団活動により、社会的自立のための支援をします。 ・学習習慣の定着と学習意欲の向上のための支援をします。 ・学校復帰へのステップを本人とともに、家庭、学校と連携しながら考えます。		月・火・木曜日 10：00～14：45 金曜日 10：00～12：00 *水曜日はチャレンジ日 *長期休業中（夏休み・冬休み）は休みとなります

(2) 特別支援教育課

主な相談内容	対象	方法
○特別支援教育に関すること ・学習のつまずきに関すること ・ことばの発達に関すること ・対人関係に関すること ・見えや聞こえに関すること	幼児、児童生徒 保護者及び教職員	毎週 月～金曜日 9：00～17：00 月1回 土曜日 9：00～17：00

【資料】相談件数（令和元年度）

	相談件数(件)	電話(件)	来所(件)
3,322	①教育相談課 3,017	1,500	1,517
	②特別支援教育課 305	130	175

4 資料・情報の収集・提供に関すること

学校教育に関する図書、視聴覚資料、その他必要な資料等を収集・整理し、提供します。

○教育に関する図書資料等の収集・整理

○図書資料室の利便性確保と環境整備

原則として、県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教職員の方々に御利用いただけます。利用時間は、9：00～17：00です。

【令和元年度の図書資料等】

	図 書	視聴覚教材	そ の 他
令和元年度収集	178冊	7本	・各教科や道徳、生徒指導等学校教育に関する38種の定期刊行物 ・全国の教育センターや大学等の研究紀要をはじめとする教育資料（3,724冊）
累 計	19,926冊	400本	

5 学校等の支援に関すること

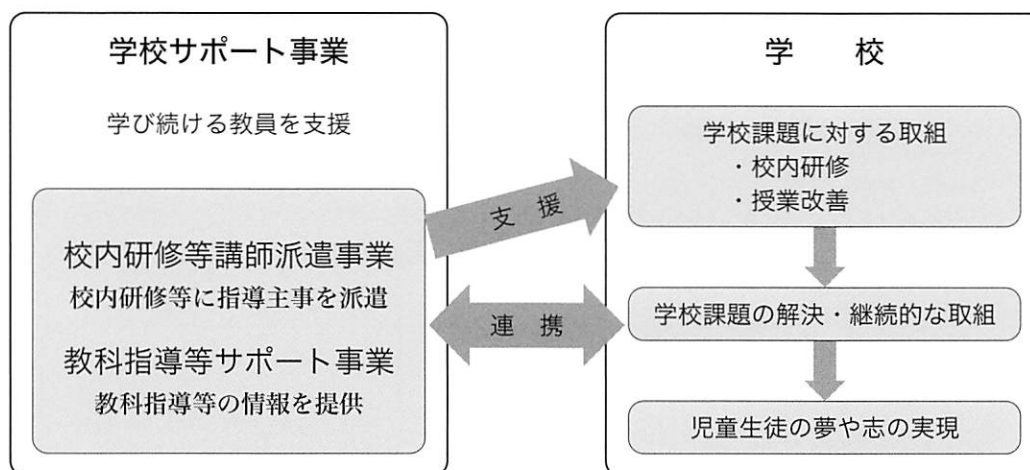
教育活動の充実のために、学校が必要とする事業を展開し、先生方をサポートします。

○校内研修等講師派遣事業

学校が抱える教育課題等の解決に向けて、教員の資質・能力の向上を目指して行う校内研修等に講師として指導主事を派遣し、研修の活性化を図るとともに教育活動を支援します。

○教科指導等サポート事業

県内教員から寄せられる教科指導等の質問に対して的確な情報を提供し、教員をサポートします。



【校内研修等講師派遣事業のテーマ例】

<p>学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆授業力向上と授業改善 ◆授業におけるICT活用 ◆特別の教科 道徳 ◆授業のユニバーサルデザイン化 ◆学習状況調査の活用方法 <p>特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎特別な配慮を必要とする児童生徒への支援 ◎個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成 ◎障害特性に応じた指導 	<p>生徒指導・教育相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇児童生徒理解のための調査法の活用 (「アセス」や「Q-U」の理解と活用) ◇人間関係づくり (構成的グループ・エンカウンターなど) ◇面接相談の進め方 (教育カウンセリングの基本) ◇ストレスマネジメント ◇いじめへの対応 ◇不登校への対応 ◇保護者への対応 ◇情報モラルの指導
--	---

【令和元年度の実績】

事業名	件数
校内研修等講師派遣事業	195件
教科指導等サポート事業	56件

6 情報化の推進に関すること

学校教育の情報化推進に関する相談や情報通信ネットワークの技術支援を行います。

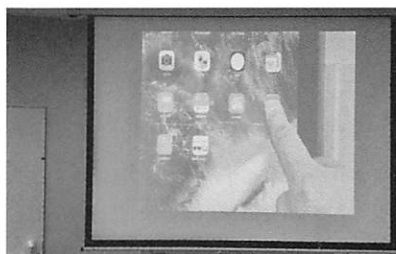
- わかりやすい授業の実現に向けたICT活用を支援します。
- 授業に役立つ教育情報を提供します。
- 青森県教育ネットワーク（ASN）に関わる技術支援を行います。

「教育の情報化」支援

学習用タブレットや実物投影機等のICT機器の整備や活用法など、教育の情報化に関わる技術を提供しています。



学習用タブレットの活用



実物投影機の活用



電子黒板の活用



ICT機器に関する技術支援

教育情報の提供

「研究指定校の取組」・「授業改善」・「WEB授業動画配信」など、授業で役立つ情報を提供しています。

総合学校教育センタートップページより



※「教育情報の提供」については、当センタートップページの学校教育全般に役立つ情報からご覧いただくことができます。

情報通信ネットワークの活用推進

青森県教育ネットワーク（ASN）に関するサービスや技術を提供しています。

メーリングリスト：電子メールの一斉配信システムです。教育研究会、文化・スポーツ団体等、教育活動の意見交換の場として利用できます。

テレビ会議システム：インターネット回線を利用して、まるで会議室にいるかのような、双方向性のある会議を実現するシステムです。学校間交流、各種会議、遠隔授業の場として利用できます。

青森県教育ネットワーク



7 広報に関すること

県内外の最新の情報やセンターの研修講座、研究成果に関する情報等を広く県民に周知し理解を図ります。

- センターの業務や研修講座等の紹介について、Webページ、刊行物、メール配信等で情報を発信します。
- 授業に活用できる情報を提供します。
- 情報の即時性と適時性をキーワードに、情報発信の工夫改善に努めます。

- ・「センターだより」をWebページ上で発行
- ・「研修講座等」をWebページで公開
- ・「開催した講座の様子」をWebページで公開
- ・要覧の発行
- ・「青森県総合学校教育センターInformation」の発行
- ・リーフレットの配布「教育相談のご案内」「教育相談・適応指導のご案内」
- ・メール配信を活用した各種情報提供
- ・「教育広報おもりけん」、「広報おもりけん」及び「県民だよりおもり」等の広報誌へ記事提供

センターだより 第55号
青森県総合学校教育センター
令和元年12月17日発行

あおもり教育フェスタ2019の様子

11月15日(金)16日(土)に当センターにおいて、あおもり教育フェスタ2019を開催したところ、多くの方に御来場いただきました。先発的な実践発表や各種研究等に関する多くの情報交換等がなされ、送気あふまる催しとなりました。関係者の皆様並びに御来場いただきました皆様、誠にありがとうございました。

➤ 研究員研究発表
当センター2年目研究員の研究発表が行われ、これまでの1年半の研究の経過や成果について、演習や実際の授業映像などを交えながらの説明がされました。

佐々木智恵	小学校算数科「図形(領域)において、統合的・発展的に考察する力を育てる指導法の研究 -「つなげる広げるシート」の活用を通して-	佐々木研究員の発表
松坂 知広	理科の観察・実験において、探究の過程を精緻化することで考察を導きだせる指導法の研究	
吉澤 拓也	中学校国語科の文学的本文の学習において、自立した読みがでる生徒を育成する指導法の研究 -型を用いた「問いつくり」と既習を生かした「問い」の追究を通して-	
長内 武	多様な学習スタイルの生徒が在籍する中学校の通常の学級において学習意欲を高める指導の在り方 -授業の二・四・六・八・十を軸として-	長内研究員の発表
西澤 謙希	小学校体育科「球技運動」におけるICTを活用した効果的な指導法の研究 -教員が個別課題の実践を通して-	
井澤ゆり子	幼保小連携における教職員間の関係構築に関する研究	
吉田 理	小学校4年生の運動習慣を育むための指導の研究 -運動習慣を育むプログラムの構築・実践を通して-	
橋 美那子	中学校における保護者と教師の連絡関係構築に関する研究	橋研究員の発表

➤ プロジェクト・課研究発表
プロジェクト研究は、当センター所属4校の枠を越え、5つのグループ(授業力向上、マネジメント、インクシブ教育システム、情報教育、うきうきワクワク学級・HR経営)に分かれて、進めてきた研究です。今年度は、特別支援教育課の課研究の発表もありました。学校現場で活かせる手立てやアイデアを体験しながら学び合う場となりました。

➤ 講演会
講演会では、日本大学文理学部教授 藤平 教 氏を講師としてお迎えし、「魅力ある学校づくり-学校の主役は一人一人の子どもたち-」と題して、「不登校の予防について正しく理解する」「魅力ある学校づくりに向けて、子どもが自己有用感(育)育む必要性を共有することについて様々な実践例を交えて、お話をいただきました。受講者からは、「涙があふれました。」「子どもを幸せのために頑張りたいです。」「などの感想が多数寄せられ、大変有意義な講演会となりました。

➤ 各種展示コーナー
研究員研究、プロジェクト・課研究に関する展示の他、高校生による平成30年度深い学び合同発表会ホスター展示、当センター所属による図書資料室にある書籍等の紹介ポスター展示、第17回青森市中学校文化連盟 技術・家庭科作品展、青森地方気象台による防災教育模擬授業が行われました。

今年度の研修講座の様子

義務教育課

義務教育課が担当している26の研修講座(教科研修24講座、教科外研修2講座)を、無事に終えることができました。受講者アンケートでは、95%以上の受講者から高評価をいただくことができました。

受講者からは、次のような感想が寄せられました。

- 教科の研修を改めて受講してみると、講師の講義や演習が大変興味深く、勉強になった。子どもの立場で考えてみるのは、貴重な経験であった。
- 教科外の研修で自校の特色を考えてみることは、とても有効だと思った。学校の現状について考えることは、あらゆる指導の根本になるような気がした。
- 学校行事の準備等で大変な時期ではあったが、時間をやりくりして参加してよかったと思える研修だった。

また、受講者アンケートからは、改善に向けた貴重な御意見もいただいています。次年度の開催に当たって、研修内容が少しでも充実したものとなるように、一層の工夫を図ります。忙しい学校現場とは思いますが、少しでも多くの先生方に受講をお願いいたします。

高校教育課

こんな講座実施しています! 各教科・科目から1つ紹介

地理・公民 C09 社会科教材開発講座 八甲田山官中行事運営職員資料 類を覚学	音楽 C32 伝統文化教育講座 講師: 上野原大学 有田 山内 篤子 先生 民謡や長唄を教材とした 三味線の実技	保健・体育 C44 中・高等学校保健体育 科研修講座【体育】 剣道が楽しい生徒を、剣道 好きな生徒に育む授業展開 講師: 横浜国立大学 名取教授 高木 雅郎 先生	国語 C05 主体的・対話的で 深い学びを実現する高 等学校国語科授業づく り講座 講師: 横浜国立大学 名取教授 高木 雅郎 先生	理科 C23-25 学びを 実践させる高等学 校理科実践講座 【物理・化学・生物】 C26 専門力が育ぶ 高等学校地学基礎 研修講座
英語 C50 高等学校英語科言語 活動実践講座 講師: 福天大学 津野教授 小原 利廣 先生	数学 C16 高等学校数学科教育講座 講師: 専修館大学 名倉教授 濱邊 公夫 先生			

産業教育課

産業教育課では、県立学校の産業教育(家庭、情報、農業、工業、商業)と、ネットワークやICTの活用にて特化した13の講座を実施しました。その中から今年度新たに開設した講座をご紹介します。

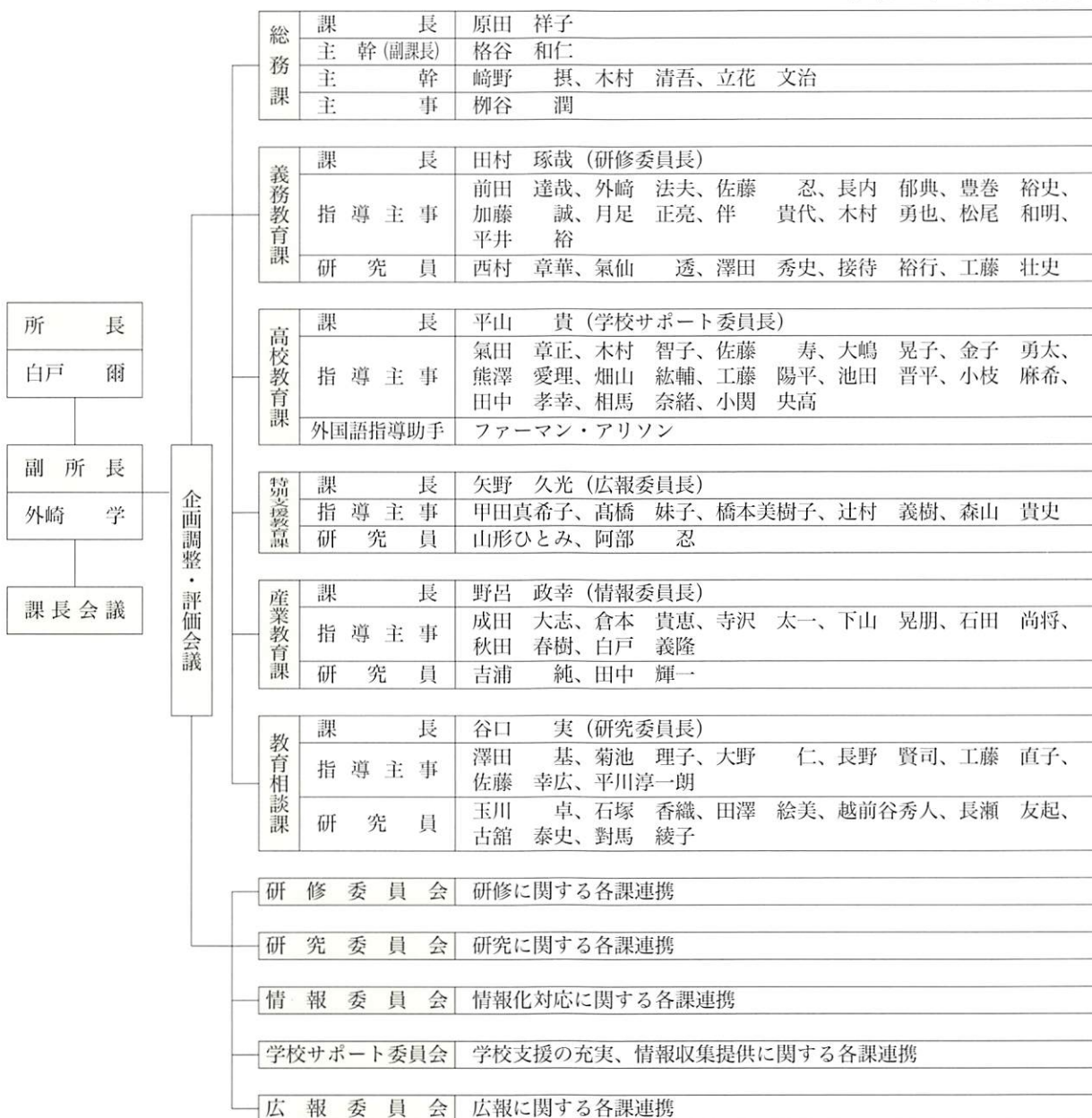
D21 使ってみよう! 電子黒板活用講座 NEW

7月25日(木)に小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の計17名の先生方を対象に、学校の中に戻っているICT機器を少しでも多く活用していただくことを目標に実施しました。決して難しいことはせず、『大きく見よう』とこころがスタートです。実際の操作体験などを通して、児童・生徒の興味関心を高める活用や、課題を明確につかませ、思考や理解を深めるなど教育効果が高まる使い方ができるようになる講座です。

「センターだより第55号」(令和元年12月17日発行)

III 組織機構

令和2年4月1日現在



職 員 数

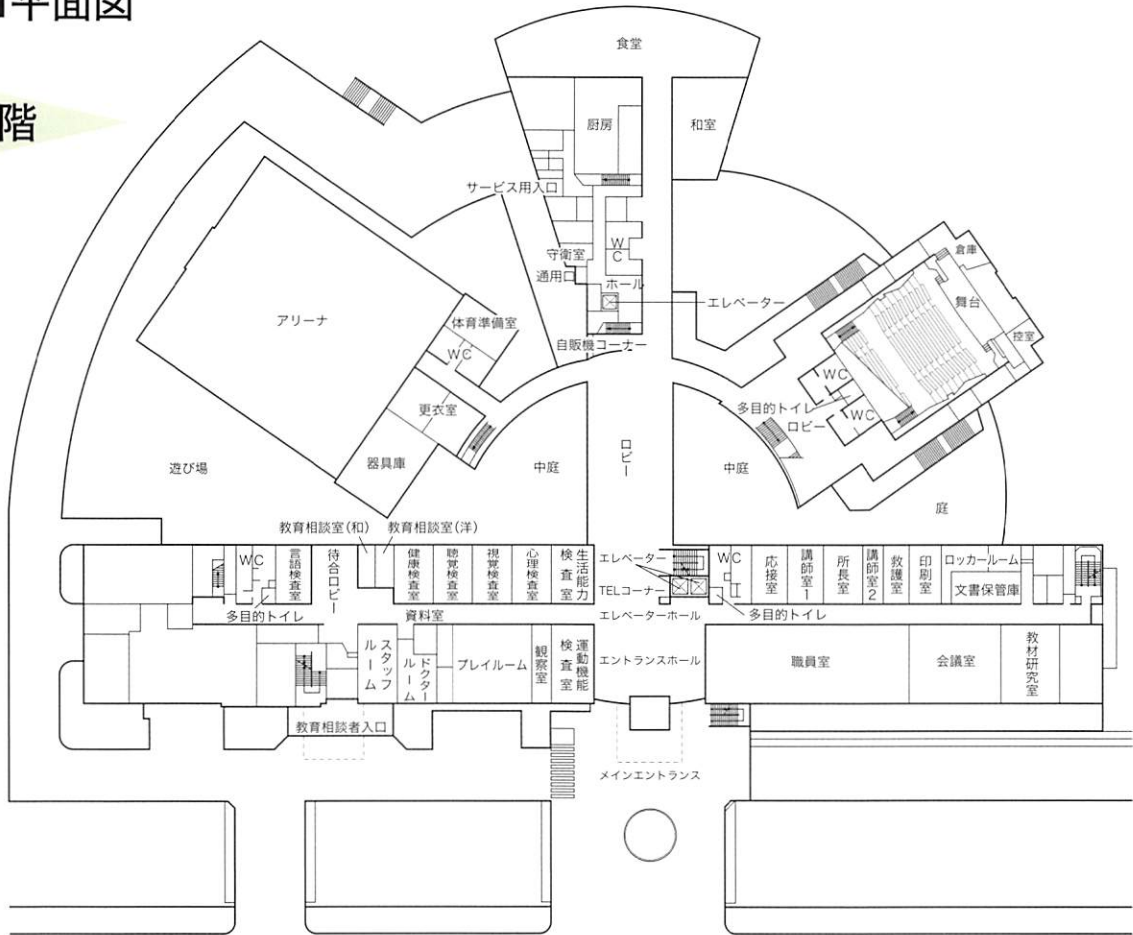
所 長	副 所 長	課 長	指導主事	会計年度* 任用職員	合 計
1	1	6	43		
主 幹	主 事	研 究 員	小 計	12	84
4	1	16	72		

* 会計年度任用職員・・・研修講座補助員2、非常勤事務員3、外国語指導助手1、教育相談補助員2
指導員3、不登校支援コーディネーター1

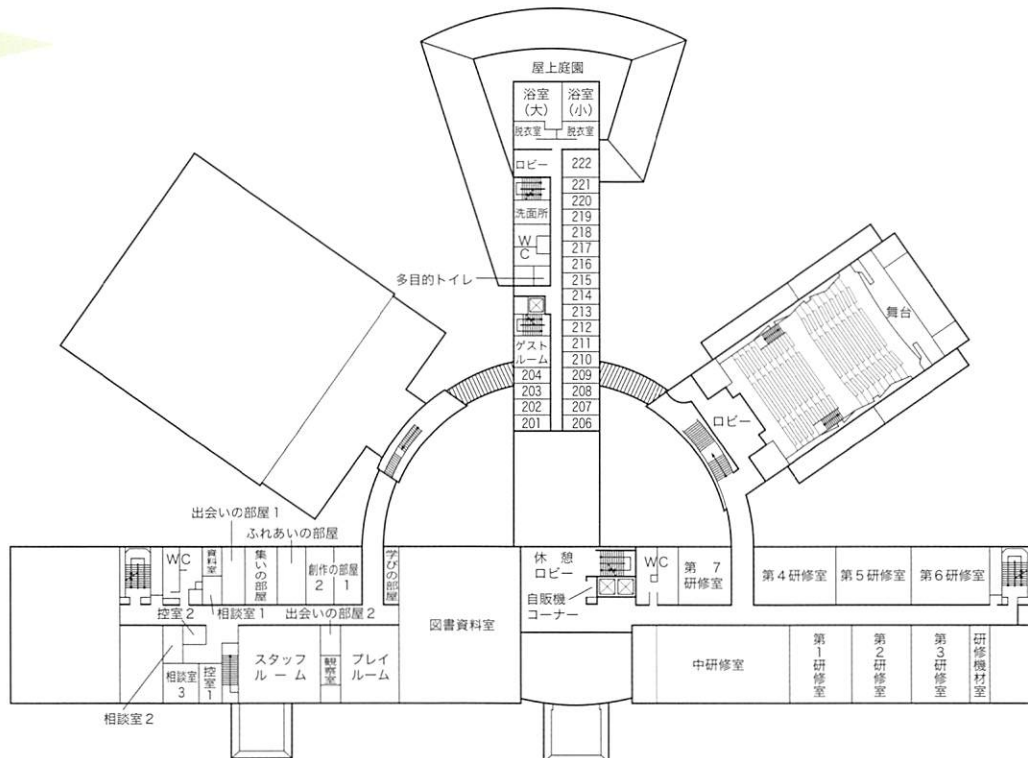
IV 施設の概要

■ 平面図

1階



2階



“これからの社会を生き抜く力”を育む“教師力”の向上



中央で育つ花は子どもたち、花が育つ場は学校です。それらを取り囲む教師集団は、互いに連携・協働しながら教育活動に取り組んでいます。また、暖かな色合いで学校を包み込んでいるのは県総合学校教育センター等の関係機関や家庭・地域社会で、教育活動を支える様子を表しています。

舞い上がる花の色は、学校教育全体を通して育成される新しい時代に求められる資質・能力を表し、舞い上がる花は、子どもたちが自立し社会参加へ向かう様子を表しています。